

# 船舶事故調査報告書

平成30年1月24日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成29年7月21日 17時10分ごろ
発生場所	愛媛県 <small>いかた かじや</small> 伊方町梶谷鼻東方沖 伊予三崎港三崎第1防波堤灯台から真方位117° 2.0海里付近 (概位 北緯33° 22.4′ 東経132° 09.3′)
事故の概要	ミニボート（船名なし）は、発進した際、転覆した。
事故調査の経過	平成29年7月24日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ミニボート（船名なし）、長さ 3.00m
船舶番号、船舶所有者等	なし、個人所有
乗組員等に関する情報	操縦者、操縦免許 なし 船舶所有者、操縦免許 なし
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風速 1m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、操縦者及び船舶所有者が乗り、船舶所有者が操縦し、磯釣りの目的で梶谷鼻の岩場に向けて伊方町名取漁港を出発した。</p> <p>船舶所有者は、梶谷鼻の岩場に到着した後、本船から同岩場に移り、釣り道具等の荷物を同岩場に置いた後、操縦者に対し、同漁港に戻って別の友人1人を迎えに行くよう要請した。</p> <p>本船は、操縦者が1人で乗り、操縦者が船尾部に腰を掛けて船外機のスロットルレバーを操作したところ、急発進し、左旋回して船体が左舷側に傾き、転覆した。</p> <p>操縦者は、本船の操縦経験がなく、船外機のスロットルを開け過ぎて急発進し、体が船外機のティラーハンドルに寄り掛かり、左舵を取った状態となったと本事故後に思った。</p> <p>操縦者は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	本船は、梶谷鼻東方沖において、操縦者が、本船の操縦経験がなかったことから、船外機のスロットルを開け過ぎ、急発進した際、操縦者の体が船外機のティラーハンドルに寄り掛かって左舵を取った状態となり、左旋回して船体が左舷側に傾き、転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、梶谷鼻東方沖において、操縦者が、本船の操縦経験がなかったため、船外機のスロットルを開け過ぎ、急発進した際、操縦者の体が船外機のティラーハンドルに寄り掛かって左舵を取

	<p>った状態となり、左旋回して船体が左舷側に傾き、転覆したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 操縦方法を把握してから、ミニボートを操縦すること。</li> <li>・ ミニボートの船舶所有者は、操縦方法を把握していない者に操縦させないこと。</li> </ul>